

B

ook 必読本

【わたしの一冊】

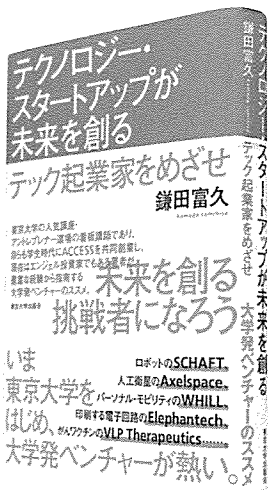
失敗しても失くしてもほとんどなく、スタートアップが「心銘記」になる

成功した起業家で、多くのスタートアップを支援してきた著者が、若者と日本社会に向けて送る大学発ベンチャーのススメである。語り口は淡々と率直だが、経験から語る事例の質量が説得力を持つ。アメリカのロボットコンペで予選を圧勝し、グーグルに買収されたSCHAF Tや、素敵なデザインと高機能な車いすで多くの受賞に輝いたWHIL Lなど、何十ものス

タートアップを支援されている。

スタートアップの環境はガラリと変わった。3Dプリンターやマイクロプロセッサやオープンラボなどが生まれ、新製品の試作が容易になった。若者を助太刀

何が売れるのか分からない現在、色々市場に出して試してみるのが成功の近道だ。多くは失敗するが、幾つかは成功する。まれに生まれる大成功が、世界で時価総額ランキング上位を占める企業の成り立ちである。



『テクノロジー・スタートアップが未来を創る』
鎌田富久 著
東京大学出版会
1600円+税

する成功した起業家も、ようやく日本に育ってきた。閉塞感に苦悩する大企業にも、出資や買収や人財支援などスタートアップとの協業によって、新しいビジネスを開拓しようという動きが出てきている。

大企業はそうしたビジネスモデルの実践には向いていない。生半可な社内ベンチャーなどでは成功はおぼつかない。本気で、120%の力を注いでやってみる、バイタリティある若者による起業が不可欠だ。今の日



三菱総合研究所理事長
小宮山 宏
Komiyama Hiroshi

本がスタートアップを必要とする理由はここにある。

肝心なのは、「失敗したらすべてを失う」というようなことでは全くないということだ。「失敗しても失うものはほとんどない」、「失敗しても得るものは大きい」のだ。ただし、スタートアップの若者が「心に銘記すべきこと」はもちろんある。ここらが本書の肝だ。著者の一貫した主張でもあり、ぜひ読んで味わっていただきたい。

ベンチャーを論じた本は多いが、若者の立場に立つて説得力をもって語る良書は少ない。飽和化と情報化による急激な変化への対応に苦悩する日本。テクノロジーに基盤をもつテクノロジー・スタートアップは希望の一つだ。

ZAIKAI LIBRARY

日本の国難
2020年からの資金・雇用・企業
中間生介 著

世界発「経済バブル」崩壊前編！
金融危機
「再来」の可能性

講談社現代新書
800円+税

リアル・イノベーション・マインド
狩野園 著

創業わずか3年で
200億円企業を作り上げた
20代経営者
ソラコム
玉川 憲成 著

現代書林
1300円+税

障害者雇用入門
経団連出版

4月から精神障害者雇用が義務付けられ、対象企業も拡大する。改めて障害者雇用への理解を深める1冊

2800円+税